

# 2022年3月期 中間決算 説明資料

2021年11月12日  
日本貨物鉄道株式会社

1. 2022年3月期 中間決算
2. 2022年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

# 1. 2022年3月期 中間決算

## 連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2021年3月期 中間期 実績	2022年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	891	905	+14	+1.7
営業費用	904	910	+5	+0.6
営業利益	-13	-4	+9	-
経常利益	-18	-8	+10	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	-19	-24	-5	-

## 単体経営成績

営業収益	711	732	+20	+2.9
営業費用	733	747	+13	+1.9
営業利益	-21	-14	+7	-
経常利益	-27	-18	+8	-
中間純利益	-24	-31	-6	-

- 本年は大雨により山陽線等が不通になったが、前年が新型コロナウイルス感染症に伴う景気低迷の影響を大きく受けたこと等により、積合せ貨物や紙・パルプ等の品目で前年を上回り単体の運輸収入が増加、子会社は収益認識基準適用により減収となったが、連結営業収益は増収。営業損失、経常損失は連単ともに改善されたが、東京レールゲートEAST開発に伴う撤去費等の計上により中間純損失は連単ともに悪化。

# 1. 2022年3月期 中間決算

## セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2021年3月期 中間期 実績	2022年3月期 中間期 実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	791	813	+22	+2.8
	営業利益	-65	-57	+7	-
不動産事業	営業収益	99	101	+2	+2.1
	営業利益	50	51	+0	+1.6
その他	営業収益	53	18	-34	-64.8
	営業利益	0	1	+1	+490.2

## (単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	629	650	+21	+3.4
	営業費用	701	716	+14	+2.1
	営業利益	-72	-66	+6	-
関連事業	営業収益	82	82	-0	-0.5
	営業費用	31	31	-0	-2.2
	営業利益	51	51	+0	+0.6

- 鉄道ロジスティクス事業は、大雨による山陽線不通等の影響を受けたが、コロナ禍が続く中で新たなブロックト레인運行開始、積合せ貨物や紙・パルプ等で前年を上回り、単体の運輸収入が増加し改善。
- 不動産事業は、ビル管理業務や工事受注収入、警備収入、新規貸付収入で増加し、増収増益。
- その他事業は、収益認識基準適用により営業収益が減少するものの利益には影響なし。

# 1. 2022年3月期 中間決算

## 連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 中間期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,122	4,156	+33	流動資産 613億円 (対前期末 -59億円) 固定資産 3,542億円 (対前期末 +92億円)
負 債	3,104	3,162	+57	
純 資 産	1,018	993	-24	
自己資本比率	23.4%	22.6%	-0.8	

## 単体財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 中間期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	3,753	3,788	+34	流動資産 427億円 (対前期末 -65億円) 固定資産 3,360億円 (対前期末 +99億円)
負 債	3,009	3,076	+66	当期末長期債務 1,722億円 (対前期末 +10億円) ・有利子債務 836億円 (対前期末 +26億円) ・無利子債務 886億円 (対前期末 -15億円) 建設工事費の支払等による未払金の増 +49億円
純 資 産	743	711	-31	

- 災害・大雨対応型のコミットメントライン（貸付限度額210億円）を継続。当期中の利用なし。

# 1. 2022年3月期 中間決算

## 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2021年3月期 中間 実績	2022年3月期 中間 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	-39	22	+61	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	-196	-98	+97	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	144	7	-136	-
現金及び現金同等物の増減額	-91	-68	+22	-
現金及び現金同等物の期末残高	245	207	-37	-15.3

## 単体キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2021年3月期 中間 実績	2022年3月期 中間 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	-51	-7	+44	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	-189	-61	+127	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	128	-5	-133	-
現金及び現金同等物の増減額	-111	-73	+38	-
現金及び現金同等物の期末残高	145	100	-44	-31.0

- 営業活動によるキャッシュ・フローは収益の増、法人税等の支払の減により増加。投資活動によるキャッシュ・フローは前年度は東京レールゲートWEST等の固定資産の取得増で流出額が増加であったが、当年度は平年並み。財務活動によるキャッシュ・フローは資金借入額の減少により増加額は減少。現金及び現金同等物は68億円減少し、期末残高は207億円。

# 1. 2022年3月期 中間決算

## 品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2021年3月期 中間期 実績	2022年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
輸送量	12,437	12,449	+12	+0.1
コンテナ	8,978	8,968	-10	-0.1
農産品・青果物	720	656	-64	-9.0
化学工業品	762	790	+28	+3.7
化学薬品	582	614	+31	+5.5
食料工業品	1,550	1,468	-82	-5.3
紙・パルプ	987	1,035	+48	+4.9
他工業品	625	624	-0	-0.1
積合せ貨物	1,390	1,468	+78	+5.7
自動車部品	322	315	-6	-2.1
家電・情報機器	159	148	-10	-6.5
工口関連物資	314	267	-47	-15.1
その他	1,564	1,578	+13	+0.9
車扱	3,458	3,481	+22	+0.7
石油	2,337	2,302	-35	-1.5
セメント・石灰石	588	616	+27	+4.7
車両	360	353	-6	-1.8
その他	171	208	+36	+21.4

- コンテナは、新たなブロックトレインの運転開始等により積合せ貨物が増送となったものの、コロナ禍に伴う食料工業品等の需要低迷、8月中旬の大雨により山陽線等が9月初旬まで不通となった影響を受け輸送量では前年をわずかに下回った。車扱は、春先の気温が高く推移し灯油が発送減となった一方、セメント・石灰石が堅調となり前年を上回った。

1. 2022年3月期 中間決算
2. 2022年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

## 2. 2022年3月期 業績見通し

### 連結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 見通し	対前年同期		2022年3月期 前回見通し (2021.5.14)
			増減	%	
営業収益	1,873	1,918	+44	+2.4	2,013
営業利益	25	47	+22	+86.0	111
経常利益	14	37	+22	+155.3	100
親会社株主に帰属する 当期純利益	0	-0	-0	-	49

### 単体

営業収益	1,502	1,566	+64	+4.2	1,638
営業利益	10	34	+23	+218.1	98
経常利益	0	23	+23	-	87
当期純利益	0	-7	-7	-	41

- 連結営業収益は、前年からの新型コロナウイルス感染症に伴う景気低迷の影響や、世界的な半導体不足による自動車部品の減送などの影響があるものの、積合せ貨物・化学工業品や化学薬品などの品目で前年を上回ることを想定し増収、連結営業利益、連結経常利益は増益を見込む。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、東京レールゲートEAST開発に伴う撤去費等を特別損失で見込んでいることなどにより減益。

1. 2022年3月期 中間決算
2. 2022年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

# 物流生産性の向上 ～新たな輸送サービスの展開～

## ■ブロックトレインの新設による幹線輸送サービスの拡充

貨物鉄道の大量性・中長距離・定時性・環境特性を活かし、新しいライフスタイルに対応したブロックトレインを新設することで、幹線輸送サービスを拡充

### ●2021年10月より「カンガルーライナー TF60」運転開始

運転開始日：2021年10月5日

運転区間：東京貨物ターミナル駅～東福山駅

輸送量：31ft コンテナ 30 個／1 列車あたり（往復 60 個）

列車の運行によるCO<sub>2</sub>排出削減量：年間8,083 t

### ●2022年春ダイヤ改正での新たな輸送サービスの拡充

・新たなブロックトレイン・速達化などのサービス向上の検討

### ●現在運行中のブロックトレイン（10往復）

【積合せ貨物の輸送で利用されているブロックトレイン】

お客様	ご利用列車（列車名称）	区間	編成
佐川急便	スーパーレールカーゴ	東京～大阪	2004年 運行開始 世界初の電車型特急コンテナ列車
福山通運	福山レールエクスプレス	東京～大阪、東京～福山 名古屋～九州、大阪～東北	2013年 運行開始 2015・2017・2021年区間拡大、現在4往復運転
西濃運輸	カンガルーライナー	大阪～仙台、名古屋～九州 東京～福山	2018年 運行開始 2021年 区間拡大、現在3往復運転

※この他、自動車部品輸送のブロックトレイン（2往復）を運行中



【福山レールエクスプレス号】



【スーパーレールカーゴ】



【カンガルーライナー】

# 総合物流の推進 ～貨物駅の物流結節機能の強化と最適な物流ソリューション提案～

## ■ レールゲートの全国展開・積替えステーション営業展開・総合物流提案

駅ナカ物流施設「レールゲート」の全国展開や、コンテナ専用トラックを要さない輸送サービス提供のための「積替ステーション」設置推進で、シームレスな物流ネットワークを実現  
 総合物流部（2021年6月新設）が中心となりグループ会社等の物流機能をつなぎ合わせ、最適な総合物流ソリューションを提案

### ● レールゲートの建設推進とテナントリーシング推進

- ・ DPL札幌レールゲート（2022年5月営業開始予定）
- ・ 東京レールゲートEAST（2022年7月営業開始予定）

### ● レールゲートの全国展開と東京レールゲートWEST ご利用者様による鉄道利用

- ・ 移転後の仙台貨物ターミナル駅をはじめとする主要貨物駅へのレールゲート展開の検討
- ・ 営業開始した東京レールゲートWESTのご利用者様による鉄道利用も堅調  
 （12ft:前年同期比2割増、31ft:前年下期よりご利用開始）

### ● 積替えステーションの利用拡大

- ・ 大都市駅では引越し荷物などで着実なご利用
- ・ 松山・水沢等での農産物などの利用促進に向けた営業活動の強化

### ● グループ会社等の物流機能をつなぎ合わせ、最適な総合物流ソリューションを提案

- ・ 倉庫や一般トラックなどグループ会社のアセットや輸送力を組み合わせた複合サービスをソリューション提案し受託  
 （貨物の一時保管と鉄道輸送の組み合わせを拡充：日本運輸倉庫+日本FL）



【DPL札幌レールゲート 新築工事の状況】



【東京レールゲートEAST 新築工事の状況】



【新座貨物ターミナル駅 積替えステーション】

# 安心・安全な物流サービスの提供

## ■ 安全性の向上・災害対応力の強化

システム導入など貨物鉄道の安全性の向上とBCP対策をはじめとした災害対応力の強化による鉄道事業基盤を強靱化

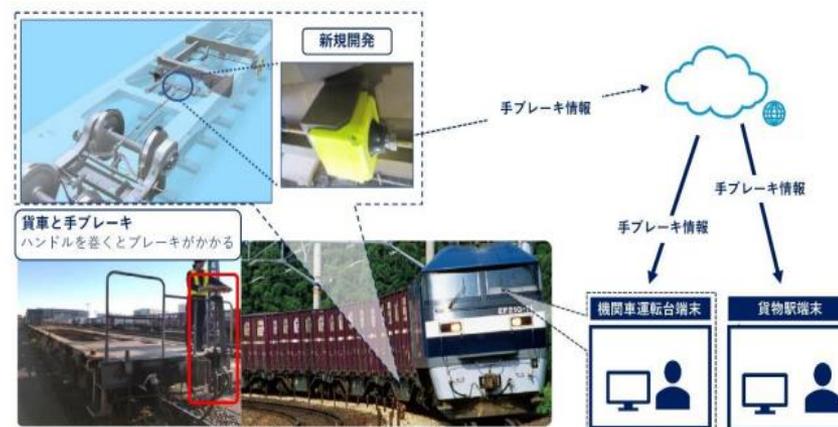
### (安全性の向上)

#### ● 全コンテナ車への手ブレーキ検知システムの導入

- ・手ブレーキ※がかかったまま列車を発車させようとすると、IoT端末から取得する手ブレーキ情報をもとに、運転士等へアラームを通知
- ・2021年度上期取付実績：1,504両  
※コンテナ車を駅構内に留置するための手動により作用させるブレーキ装置

#### ● 運転士への列車編成通知書の情報提供

- ・運転支援システム（PRANETS）を活用した運転士への列車編成通知情報提供機能の検証試験の開始



「手ブレーキ検知システム」概念図

### (災害時対応力の強化)

#### ● 代行トラック駐車場の事前確保

- ・一部地元自治体との連絡体制を確立
- ・幹線沿線での事前確保の折衝

#### ● 災害時のリダンダンシー確保

- ・災害時のリダンダンシー確保（日本海縦貫線の迂回輸送等）を目的にEH500形式機関車の改造



【EH500形式機関車】

# グリーン社会の実現に向けた取組み

## ■カーボンニュートラルの取組み強化

貨物鉄道輸送におけるカーボンニュートラルの推進と、取組み強化を検討のためのプロジェクトを設置

### ●HD300形式ハイブリッド機関車の導入

- ・燃費削減効果：36.0%低減※<sup>1</sup>
- ・2021年度：1両導入予定

※<sup>1</sup>：2010年6月東京貨物ターミナル駅で実施した700トンけん引走行試験における既存入換機関車との比較測定結果



【HD300形式ハイブリッド機関車】

### ●EF510形式交直流電気機関車（九州向け量産先行車）の新製

- ・交流回生ブレーキ装備による消費電力削減※<sup>2</sup>
- ・2021年12月メーカーからの出場予定（2023年3月運行開始予定）

※<sup>2</sup>：メーカーからの出場後に消費電力削減効果の測定を行います。



【九州向けEF510交直流電気機関車】

### ●第4次排出ガス規制対応フォークリフトの導入

- ・燃費削減効果：15%以上低減
- ・2021年度：81台※<sup>3</sup> 導入予定
- ・2022年度以降2カ年計画で116台※<sup>3</sup> 導入を予定

※<sup>3</sup>：12ft・20ft用フォークリフト



【第4次排出ガス規制対応フォークリフト】

### ●次世代バイオディーゼル燃料の使用開始

- ・次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」（ユージェナ社製造）を越谷貨物ターミナル駅の構内移送用トラックへの使用を開始
- ・今後、フォークリフトや機関車への使用拡大を検討



【次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」】

### ●カーボンニュートラル・地域貢献推進プロジェクトを設置

- ・環境特性に優れた貨物鉄道輸送の優位性を更に強化し企業価値を高めていくため、プロジェクトを設置し以下の項目の検討を開始

- ①JR貨物グループとしてCO2削減に向けた取組み強化
- ②JR貨物グループの取組みの効果的な発信方法
- ③鉄道利用促進と鉄道を利用するお客様への貢献
- ④カーボンニュートラルの取組み等を通じた地域への貢献

# 地域の活性化への貢献

## ■不動産開発の展開・新規事業への挑戦・海外事業の展開

不動産事業・新規事業を通じて地域の活性化・社会課題の解決へ貢献し、さらに海外事業を通じて海外地域へ貢献

### ●不動産開発の展開

- ・新小岩分譲マンション（2022年9月引渡予定）の販売開始
- ・市場からの賃貸用マンションの新規取得



【新小岩分譲マンション（イメージ）】

### ●植物工場事業への挑戦

- ・社会に貢献し必要とされ続けるため「社会課題解決型」の新規事業への挑戦の一環として植物工場事業を行う合弁会社を設立(2021年9月)、新工場を建設する予定



【植物工場で生産される野菜（ケール）】

名称：山村JR貨物きらベジステーション株式会社  
 事業内容：農産物の生産、加工、販売事業  
 資本金：1億円  
 出資比率：日本山村硝子：51%、JR貨物：49%

### ●バンコク駐在員事務所の開設

- ・タイ王国の首都バンコクに駐在員事務所を開設（2021年9月）
- ・タイ王国における物流生産性の向上とグリーン社会実現へ貢献するための貨物鉄道輸送事業化の実現に向け、調査・検討を本格化



【バンコク駐在事務所】

〔当社グループの事業系統図〕

お客様

鉄道を基軸とした総合物流サービス

(貨物鉄道輸送)

(保管、荷捌、流通加工、配送)

不動産の賃貸・分譲、ビル・物流施設の管理、  
農産物の生産・販売 他

鉄道利用運送事業者

鉄道ロジスティクス事業

【利用運送】

- 日本フレートライナー(株)
- 全国通運(株)

【倉庫・物資別】

- 日本運輸倉庫(株)
- 名光急送(株)
- 東京輸送(株)
- 日本オイルターミナル(株)
- 関西化成品輸送(株)
- セメントターミナル(株)

不動産事業

【関連・その他】

- (株)ジェアール貨物・不動産開発

建設・  
コンサルティング  
ビル管理

その他

【関連・その他】

- 山村JR貨物きらベジステーション(株)

業務提携・  
鉄道輸送利用

日本貨物鉄道株式会社

連絡運輸

【臨海鉄道】

- 八戸臨海鉄道(株)
- 仙台臨海鉄道(株)
- 秋田臨海鉄道(株)
- 福島臨海鉄道(株)
- 鹿島臨海鉄道(株)
- 京葉臨海鉄道(株)
- 神奈川臨海鉄道(株)
- 名古屋臨海鉄道(株)
- 衣浦臨海鉄道(株)
- 水島臨海鉄道(株)

駅構内業務・荷役業務・  
検修附带作業

【ロジスティクス】

- (株)ジェアール貨物・北海道物流
- (株)ジェアール貨物・東北ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・北関東ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・南関東ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・新潟ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・信州ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・東海ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・北陸ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・西日本ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・中国ロジスティクス
- (株)ジェアール貨物・九州ロジスティクス

駅施設管理

【関連・その他】

- 北九州貨物鉄道施設保有(株)

リース  
資材調達

【関連・その他】

- ジェアールI7商事(株)

リース、グループファイナンス、資材調達

●印：連結子会社、□印：持分法適用会社